

1 単元 これなあに

2 教科の目標

平仮名や片仮名の単語を正しく明瞭に読むことができる。

3 活用したICT

デジタルカメラ コンピュータ

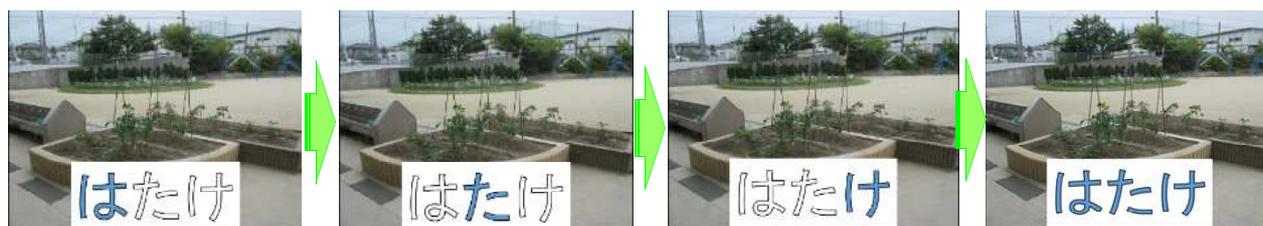
4 活用したICTの工夫

- ・ 名前が分からないものを子どもが撮影し、後から振り返る。(デジタルカメラ)
- ・ 一文字ずつはっきりと発音し、ものの名前を正しく覚える。(コンピュータ)

5 実践の様子

A児とともに学校探検を行った。A児に「これは何かな」とたずねて様々なものの名前を確かめながら校内を回った。後から教材づくりに活用するために、ものの名前を答えられなかったものをデジタルカメラで撮影させた。

撮影した画像を活用して、コンピュータを利用した教材「もののなまえスライド」を作成した。「もののなまえスライド」は、ものの画像とともに、字幕が表示され、一文字ずつ順に色が変わっていくものである。(資料1)



(資料1)「もののなまえスライド」の一部

「もののなまえスライド」をA児に提示した。まず、学校探検のとき、A児が答えられなかった畑の画像とともに、「は」だけが青くなった字幕を提示すると、A児は「は」とはっきりと発音した。次に「た」、さらには「け」と同じように字幕を提示すると、青くなっている文字を大きな口を開けてはっきりと発音することができた。最後にすべての文字が青くなっている字幕を提示すると「はたけ」と正しくはっきりと発音することができた。

この活動を、他のものでも同様に行った。「プロジェクタ」「火災報知器」など、文字の数が多くA児にとってあまりなじみのないものは覚えるまでに時間がかかったが、繰り返し学習を行うことで、画像を見ただけでもものの名前を答えることができるようになった。

また、動画と字幕を提示して、動作を表す言葉についても習得させた。A児が踊っている動画に「おどる」という字幕を付けて、A児に提示した。他にも、「たべる」「ほんをよむ」「はしる」などの動作を表す言葉をA児に習得させた。

6 成果と課題

- 字幕の色が変わる「もののなまえスライド」を活用することで、発音すべきところが明確になり、ものの名前を明瞭に発音することができるようになった。
- 学習を繰り返すことで、字幕がなくても、ものの名前を言うことができるようになった。
- ものの名前や動作について言うことができるようになったが、自分が伝えたいことを相手に伝えるために、今後それらを組み合わせる力は身に付ける必要がある。